



さまざまな世代の方々に
 仙台フィルならではの
 楽しい音楽をお届けしますので、
 ぜひ演奏会にお越しください。

Close-up Interview
 クローズアップインタビュー

我妻 雅崇 氏

わがつま・まさたか

【概要】
 公益財団法人
 仙台フィルハーモニー管弦楽団
 代表者 理事長 増子 次郎
 事業内容 交響管弦楽の啓蒙を使命として、年間9回の定期演奏会、100公演以上におよぶ演奏活動を展開。学校や地域の祭りなど、ホール以外での演奏会も積極的に行っている。
 所在地 仙台市青葉区錦町一丁目3番9号（仙台市錦町庁舎1階）
 TEL 022-225-3934
 HP <https://www.sendaiphil.jp>

公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団
 常務理事・事業部長
 プロフィール
 1973年仙台市生まれ。
 学生時代より合唱やミュージカルに参加。2001年仙台フィルハーモニー管弦楽団インスペクターに就任。2011年の東日本大震災後からは、「頑張ろう日本!スーパーオーケストラ」のインスペクターや「レクイエム・プロジェクト」のインスペクター兼ステージマネージャー、2013年よりMusic from PaToNaステージマネージャーを歴任、多岐にわたる活動を続けている。2015年より仙台フィル各種公演の司会者も務め、オーケストラを知り尽くしたテンポ感ある、歯切れのいい司会が好評を博している。2021年より仙台フィルハーモニー管弦楽団常務理事・事業部長に就任。現在に至る。

― はじめに、仙台フィルハーモニー管弦楽団(以下、仙台フィル)の活動についてご紹介いただけますか。

仙台フィルは、市民オーケストラとして1973年に宮城フィルハーモニー管弦楽団の名称で結成され、その翌年に第1回目の定期演奏会を開催しました。1989年、財団法人化とともに仙台フィルハーモニー管弦楽団と改称し、現在に至っております。私も同じ1973年生まれということもあって、縁を感じています。

活動に関しては、年間9回、計18公演の定期演奏会を軸に、第九などの特別演奏会を年間数回開催しております。依頼公演も多く、全国の小中学校を訪問したり、各自自治体、企業などからの依頼でコンサートを届けています。2001年からは仙台国際音楽コンクールのホストオーケストラとして、また2006年からは仙台クラシックフェスティバルにも出演し、年間約100回の公演を行っています。

所属する楽団員は、4月の時点で63名で、仙台市を拠点に東北や関東で演奏活動を行っています。2000年には初のヨーロッパ公演、さらに2013年にはロシア公演も行いました。

― 我妻さんは、どういったきっかけで仙台フィルに入られたのですか。
 小学生のころ、先生から「君の歌声は素晴らしいね」とほめられたことで音楽に興味を持ちました。そして高校2年生のと

き、仙台市制100周年のミュージカルに参加し、そこで仙台フィルの事務局の方と知り合いになり、18歳の時に「仙台フィルで楽器運びのアルバイトをやらなにか」と誘われたのが仙台フィルと関わりを深めたきっかけです。

そこでオーケストラの演奏を改めて間で聴き、一瞬でその魅力に引き込まれました。浪人時代から学生時代と5年間アルバイトとして働き、大学卒業後は一般企業で営業職として働きましたが、2000年の冬にアルバイト時代の上司から「インスペクターとして戻ってこないか」と誘われることになりました。

インスペクターは、舞台上の全演奏者のマネージャーのような存在で、楽団員のスケジュール管理やオーケストラの編成、リハーサルや段取りを行うのが基本的な役割です。また、公演にお迎えする指揮者やソリストの送迎、ホテルの手配、出張して行う演奏会するときなどは、出演者全員の移動や宿泊の手配も行います。

20年間、インスペクターとして働いた後、現在は常務理事および事業部長として、全体を見渡す役割を担っています。ロビー運営や広報宣伝、営業などはまだまだ勉強中ですが、裏方の経験がある人間だからこそ、できることがあると考えながら日々活動しています。

― 昨年、結成50周年を迎えられました

が、その歴史の中で、最も印象に残っている出来事はどのようなものですか。

私が2001年に入団してから、23年が経過しました。その中で最も印象に残っているのは、やはり東日本大震災です。2011年3月11日は、日立システムズホールで夜7時からのコンサートのために、3時からゲネプロ(総練習)を行う予定でした。楽団員はすでに集まっていた、舞台上で音出しをしている者や楽屋で準備をしている者もいました。そのとき、大地震が襲ってきたのです。

何とかして青葉区錦町にある事務所まで戻り、数日かけて楽団員と職員全員の安否確認を行いました。事務所は幸いにも早い段階で電気が戻ったので、楽団員が

来では携帯電話の充電をしたり、炊飯器でお米を炊いたりしていました。

その後間もなく、楽団員たちから「音楽で被災した方々を救いたい」と声が上がりが、復興コンサートを開催することを決めました。当時、いま必要とされているのは衣食住で、音楽ではないのではないか

仙台フィルの楽団員も
 この仙台で暮らしています。
 ぜひ、地元の「仲間」として
 応援してください。



とも考えましたが、私たちは市民に寄り添うことが使命であると日ごろから考えていたので、震災から2週間後の3月26日、1回目の復興コンサートを決行しました。その後被災地を何度も訪問し、避難所で演奏を聴いてくださった方の多くが涙を流して感動してくださり、「泣きたかったけど泣けなかった。そのことを音楽が気づかせてくれました」という声もいただきました。

コロナ禍でも、感染拡大の防止を図る観点からさまざまな活動が制限される中、私たちは演奏する人、聴いてくださる人の安全を確保する努力を行い、試行錯誤しながらコンサートを続けました。演奏会数は減少し、経営も厳しい状況で

Close-up Interview

好奇心をくすぐるプログラム、多彩なゲストをお招きして演奏会を盛り上げます。

したが、助成金や寄付で何とか乗り越えることができず、とてもありがたいことであると感謝しています。

「地元に基づくオーケストラ」として活動する中で、そのベースにあるお考えについてお聞かせください。

私たちは仙台のオーケストラとして、市民の皆さんのすぐ隣に存在でありたいと考えています。オーケストラという「敷居が高い」と思われることが多いので、それを払拭するために、例えば定期演奏会の終演後に、楽団員がロビーに出てお客さまを見送るなどのホスピタリティを大切にしています。同時に、市民の皆さまから寄せられたご要望にも、できる限り応えるようにしています。私たちが皆さんの近くで質の高い音楽を提供することで、音楽そのものだけでなく、演奏者にも親しみをもってもらいたいと思っています。言い換えれば、「このオーケストラが、市民の皆さまの生活に自然に溶け込んでいる」そんな存在になることを目指しています。それによってオーケストラ

ラやクラシック音楽に対する興味が深まるだけでなく、楽団員一人一人を応援してくれるような関係を築きたいと考えています。その一例として、学校の体育館での子ども向けコンサートなども行い、子ども頃からオーケストラの音にふれることで、その魅力を感じてほしいと思っています。子どもたちが緊張せずに音楽に耳を傾けられるように、私が演奏会の司会役となつて、楽しい雰囲気をつくることも心がけています。小さい頃から「オーケストラの奏でる音楽はすごいな、楽しいな」と思ってもらえれば、将来、自然にファンになってくれるだろうという期待も込められているのです。ちなみに、私は10月に開かれる仙台クラシックフェスティバルでも、ナビゲーターを務めることになっていますので、パンフレットで私の名前をチェックしてみてください。

「定期演奏会のほかに、「名曲トラベール」や「エンターテインメント定期」を活動の中に組み込まれていますね。」

「名曲トラベール」は、「平日の水曜日、午後2時間演奏」をコンセプトにした演奏会で、今年度よりスタートし第1回目はおかげさまで満席となりました。また、「エンターテインメント定期」は、クラシックファン以外の方にも、仙台フィルの演奏に興味をもってもらえるテーマを探し、今

サポーターや、一緒に震災を乗り越えてきた地元の皆さまに感謝の気持ちを伝え、この先の躍進を誓いました。本年の「進時代」の「進」は、「躍進」を継承する「進」です。

仙台フィルは、これからの5、6年で、世代交代によりメンバーががらりと入れ替わると思いますので、まずは新しく入ってくるメンバーに注目していただきたいと思っています。それから、皆さんの好奇心をくすぐるようなプログラムを考えたり、魅力的な指揮者やソリストをバランスよくお招きしたりして演奏会を盛り上げていく予定です。今年の6月からはコロナ禍以前のように定期演奏会の会場で、開演前や休憩中の時間にワインやコーヒーを提供する取り組みも再開し始めましたので、演奏会にはあまり興味がないという方も気軽に挑戦していただき、非日常的な空間で音楽を満喫し、特別な時間を過ごしていただけたらと思います。

楽団員は、この仙台で暮らしています。この街で暮らすメンバーと出合い、その個性にふれていただくことで、ますます応援したいという気持ちになっていただけたらありがたいですね。これからは、皆さまと楽団員とのよい関係を構築すべく、交流の機会もより多く設けていきたいと思っています。ぜひ仙台フィルのコンサートに足をお運びください！

の普及や啓蒙が私たちの使命ですから、皆さまにはなじみのない楽曲も提供することもありますが、演奏会のコンセプトや構成には、良いバランスを保つ工夫を凝らしています。

これから7年後の2031年にこの仙台に開館見込みの新たな音楽ホールが仙台フィルの本拠地になる予定となっております。市民の皆さんが平等に芸術を享受できるよう、あらゆる世代を対象に、クラシック音楽を中心としつつもジャンルを超えたオーケストラの音楽を届け

る取り組みを続けていく覚悟です。

音楽ホールが仙台に誕生するということは、音楽的にも商業的にも仙台にとつて大きいことですので、私たちも全国からたくさんのお客さまを集められるようなオーケストラになりたいと思います。

「本年度は「進時代」をテーマに掲げられていますが、そこに込められた思いと、今後の展望を教えてください。」

昨年、私たちは「感謝と躍進」というテーマで、50周年を支えてくれたすべての



子供向けのコンサートの指揮者体験コーナーの様子。

避難所(石巻市立蛇田小学校)で行った復興コンサート。

年度はアニメの音楽に焦点を当てた演奏会になっています。「あなたが大好きなあの曲を、フルオーケストラがシンフォニックに奏でる」というコンセプトのもと、普段の演奏会では見かけない層のお客さまもたくさん来てくださっています。

私がいつも考えているのは、出演者や曲目の魅力的なバランスです。交響管弦楽

より良い環境をめざす。

青葉環境保全 **AOBA**
〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)